

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4590100188
法人名	株式会社 創寿会
事業所名	グループホーム ゆりの里
所在地	宮崎県宮崎市佐土原町下田島19658-1 (電話)0985-72-0680
評価機関名	宮崎県市郡医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成 20年 5月 29日

【情報提供票より】(平成20年5月20日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 19 年 6 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8人	常勤 8 人, 非常勤	人, 常勤換算 人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000~31,000円	その他の経費(月額)	水道光熱費 200円/日
敷金	有()円	<input checked="" type="checkbox"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,150

(4)利用者の概要(5月20日現在)

利用者人数	9名	男性	5名	女性	4名	
要介護1	1名	要介護2	4名			
要介護3	4名	要介護4	名			
要介護5	名		要支援2	名		
年齢	平均	85.5歳	最低	73歳	最高	97歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	川崎脳神経外科 さいとう医院 中里歯科 恒吉歯科 日高医院 御殿下医院 野辺整
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、地域との交流が図れるような住宅街に位置しており、静かな環境にある。小規模多機能型居宅介護事業所と併設しており、職員はもとより利用者間や地域の方との交流も図れているホームである。ホームは、「ノーマライゼーション精神の追求」を理念に掲げ、ありのままの利用者を受け止め、ストップさせないケアや利用者が生き生きとその人らしい生活が出来るよう支援している。又、開所して1年ではあるが、ホームが地域に何が貢献できるかを考え、「介護のなんでも相談会」「独居老人世帯のゴミだし買い物支援」など様々なことに取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)	新規開設のため今回初めての外部評価である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	自己評価は、自己評価項目の理解を職員、管理者で話し合い取り組んでいる。今回、自己評価に取り組む中で改善への気づきがあったことを評価しながら、今後の課題として改善に向け前向きに取り組む姿勢がうかがえた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)	地区の代表者や家族が参加して、定期的に運営推進会議を開催している。運営推進会議で出された、地区代表の要望に対し、「介護何でも相談会」開設や地区の消防協力員の登録などすぐ形にして地域に還元している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)	家族が、意見や苦情が出し易いよう、家族訪問時や電話での近況報告時は、特に気を配り、利用者の暮らしぶりを口頭もしくは利用者の介護記録を提示し説明している。家族会はあり、今後は開催回数を増やし意見を出し易くするなど計画している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	管理者は、近隣の方々より協力や理解が得られるよう、定期的に自宅訪問し関係作りに心がけている。「ゆりの里便り」を地区の回覧を使って広報し、小学校からの訪問や地区の老人会に参加して地域との交流を図っている。又、職員は、地域の独居老人宅に訪問し、定期的なごみだしや買い物の支援をボランティアで行っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ノーマライゼーション精神の追求」を理念に掲げ、住み慣れた地域で安心した暮らしができることを目標に作り上げている。地域の方との交流も常に図り、入居前と変わらない交流が続けられるよう心がけている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念が日々のケアの実践に活かされるように、毎月のミーティングで、職員間で話し合い意識付けしている。ケアに行き詰った時なども話し合いがされ、理念を具体化している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	「ゆりの里便り」を地区の回覧を使って広報している。小学校からの訪問や地区の老人会に参加して交流を図っている。又、職員は、地域の独居老人に訪問し定期的なごみだしや買い物の支援をボランティアで行っている。毎週日曜日に「介護の何でも相談会」を実施し地域に還元している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、自己評価項目の理解を職員、管理者で話し合い取り組んでいる。今回、自己評価に取り組み、課題が抽出されたので、改善に向けての取り組み案を検討している。	○	自己評価はほとんどの職員で取組まれてたが、全ての職員ではなかった。全職員が同じ価値観の元、ケアが提供できるため全職員で取り組むことが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地区の代表者や家族が参加して、2か月ごとに運営推進会議を開催している。会議の中では、ホームの状況説明等を行い理解を求めている。地区代表の要望に対し、「何でも相談会」開設や地区の消防協力員の登録などすぐ形にして地域に還元している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当職員が運営推進会議に参加する以外に、ホームの現状や課題を報告し協力を求めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りを定期的に家族に届け、利用者の暮らしぶりを伝えている。家族の訪問の際は、利用者の暮らしぶりなどを口頭もしくは利用者の介護記録を提示し説明している。ホームは利用者ごとに担当制になっており、特に職員の異動に関しては報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が、意見や苦情が出し易いよう、家族訪問時や電話での近況報告時は、特に気を配っている。家族会はあるが、活発には機能していない状況。今後の計画としては、家族会を年2回に増やし意見を出し易くするなど計画している。	○	家族会を充実させ、出された意見をホームの質の向上に繋げてほしい。又、家族会の時に第三者の参加も検討してほしい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の入職・退職時には、家族に報告している。利用者への対応に関しては、極カスキンシップやコミュニケーションを図りダメージへの対応を行っている。併設している小規模多機能の職員もグループホームの利用者との交流を密にし、なじみの関係を作っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームの代表者や管理者の外部研修は積極的に参加し職員へ報告している。しかし職員の研修の参加が少ない。職員から外部研修に参加し自己を高めたいという意欲が窺えた。	○	職員の経験年数・得意分野・職務内容等を加味し、各職員のスキルアップを意識した職員研修計画をたて働きながらトレーニングできる機会を充実してほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月行われる研究会は理事が参加し、地域のホームとの交流を管理者が取り組んでいる。まだ、職員が同業者との交流や勉強会までは参加できていない。	○	職員レベルで同業者との交流の機会ができ、職員の育成に役立つ実践的な交流や連携が図れるよう工夫してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族・利用者の見学や宿泊体験を行い、利用者のダメージを少なくしている。ホームに入られた当初はコミュニケーションやスキンシップを集中的に行い関係作りにつなげている。このホームの特徴として、併設している小規模を利用し、馴染みの関係になりホーム入所の流れがある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が生き生きと活躍する場を大切に、利用者と共に喜び又職員全員で喜ぶことを心がけている。家族にも、利用者の生き生きとした場面の報告は、必ず行うことを実践している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者ごとに担当制になっており、日頃から利用者が何を求めているのか考える努力をしている。利用者の思いの把握が困難な場合は、家族の協力を求めている。生活暦の聞き取りシートを作成し活用している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	一人ひとりの利用者により良く暮らしてもらうために担当の職員が本人、家族の意見や希望をとり入れたプランを立て更に職員間で検討したうえで利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のモニタリングは行っているが、その月の現状が記入されている事に留まり、ケアの結果と今後のケアの見直しまでは出来ていない。	○	毎月のモニタリングの機会を活かして、利用者を取り巻く家族や職員の希望やアイデアを盛り込んでさらに今後のケアの内容を深めてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や買い物の支援、自宅訪問やドライブと利用者ごとに応じた支援を提供している。一人ひとりに対しゆっくりと希望に沿って対応することを、ホームの基本としている。本人の希望により、併設している小規模施設に訪問して地域の方と触れ合い一緒に時間を共有している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望に応じたかかりつけ医から協力を頂いている。家族による通院の場合は、特に情報提供書を密に記入し、家族、ホーム、病院の連携が図れるようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居利用と同時に重度化や終末時の方針についての話し合いはされている。家族の要望があれば受け入れる方針である。今後も積極的に、ターミナルケアの勉強会を取り入れる予定である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	特に接遇に関しては厳しく職員には指導がなされている。毎月の職員会では、言葉かけや利用者に対する態度、記録等の管理と教育がなされている。個々の職員に対しても、気になる言動行動が見られた際には、その都度説明している。調査訪問時も職員は穏やかで教育がなされているなど感じた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	じっくり利用者向き合い、場面に応じたその人らしい支援をしたいと心がけてはいる。利用者の行動にストップをかけないことを基本としている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、利用者と共に食事を取り支援している。毎日の食事は、シェフが作っているため、調理は出来てないが、週2回のおやつ作りで力を発揮している。テーブル拭きや茶碗洗いと活躍する場面はある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、入浴時間や回数(1日のうち数回)と利用者の希望に沿って対応している。午前・午後・夜間の入浴と全ての時間で対応できている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事・洗濯たたみ・チリを入れる箱作りや書棚作りと利用者に応じて役割があり力を発揮する場面がある。楽しみごとや気晴らしの支援としては、外部からのボランティアによる、そばやこんにゃく作りと様々な催しが企画されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の散歩や買い物ドライブの支援を行っている。ホームの近くに畑があり、畑に野菜の収穫や見回りと散歩を兼ねて行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアを実践している。職員は利用者の動きや言動に気を配り、外出された場合は、それとなく職員も付き添うことを心がけている。管理者は、近隣の方々の協力や理解が得られるよう、定期的に訪問し関係作りを心がけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に消防訓練を行っている。消防車が来る際には、地域住民に対し事前の連絡を行い、訓練に住民の参加協力も得られている。実施後もホーム便りに訓練の報告を載せ、回覧で地域住民に見てもらっている。災害の備蓄に対しては、何を準備すればよいかのリスト作成中であるとヒアリングより得られた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による栄養管理がなされており、バランスが保たれている。食事摂取量や水分摂取量についても把握しており、状態の変化に対応できるようにしている。利用者に応じた、食事形態にしている。食べる時間も利用者によって違うが、ゆっくり食べられるよう家族の協力も得ながら支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は広く、草木が見える中庭があり開放的である。室内は、木と漆喰の壁で落ち着きのある空間である。所々に花がいけてあり季節感が感じられた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者・家族からの持ち込みをお願いし、利用者の好みに応じた環境作りに努めている。部屋によっては、専用の机や椅子が準備されていたりと使い慣れた持込もあり工夫している。		